

感染症情報 7月18日～24日

府下小児科201医療機関(堺市19)から

①ヘルパンギーナ	831例(堺市 29例)
②感染性胃腸炎	747例(堺市 31例)
③おたふくかぜ	401例(堺市 26例)
④溶連菌感染症	344例(堺市 14例)
⑤突発性発疹	98例(堺市 7例)

が報告された。

府下全体としての感染症報告数は前週より21.1%減の2,755例であった。ヘルパンギーナが前週比30%減も、第1位のままで、第2位が感染性胃腸炎、第3位がおたふくかぜであった。ヘルパンギーナは乳幼児、特に1、2歳児に多く、高熱とよだれ、口内炎による痛みのため、食欲が減退するが、熱は2、3日で治まる。第3位のおたふくかぜが府下全体では前週比8%減、堺市では前週の29例から今回26例(10%減)ではあるが、依然流行が続いている。第4位の溶連菌感染症は府下全体では前週比28%減、堺市では前週の22例から今回14例で36%減であった。

はしか、風疹の報告はなかった。